

現代日本の住宅における食事炊事生活の形成にあらわれた連続性と変化
 の実証的研究 大阪を中心とした地域の都市部における独立住宅の住宅内部の空間のくみ
 たてられかたとその成立過程を中心に その1 研究のわくぐみ

大阪工大建築 ○塩谷寿翁 河合祐

日本女大家政 沖田富美子 鈴木淳子 熊本女大生活科学 亀山春

目的：現代日本の住居空間における食事炊事空間のくみたてられかたとその使われかたのしくみは、1950年代の後半以降の時期にいちじるしく変わってきているようである。この研究は、新旧の住生活の諸要素が併存されるもとですすんだとみられる食事炊事生活の変化と住居空間の形成とのかかわりかたとをとりえて、そこにあらわれた連続性と変化とを追究しようとするものである。またその生活的な意味を明確にすることを期して、食事炊事にかんする物質文化すなわち台所および台所用品にあらわれた生活文化を統合してとらえる視点をもち住居空間と食事炊事生活の諸要素との相互関連をさぐろうとする。

研究の経緯と本報告の内容・方法：これまで、以後に展開する研究への仮説の定立をはかるための試行的な研究をおこなっている。それは表記の都市部の住宅の実態調査⁽¹⁾でえられた結果の一部をもとに、①食事炊事に関係する住宅内部の空間のくみたてられかたとつかわれかたのしくみ、②日常の住宅内での生活と食事炊事生活との関係、③食事炊事のしかた、を1950年代と80年代とで比較するものである。また④日常の家族生活における食事（献立）の型をみだし、⑤それらの献立の調理の過程とそれにつかわれる道具類（食器・調理器具類）との関係をとらえようとしたものである。この報告（その1～その4）はその第一報であり、おもにうえの①④⑤の概要をのべる。注（1）「現代住宅の住まい方と食生活にかんする調査」を1987年6～7月に実施（内容は略す）。対象は大阪工業大学建築学科の学生の家族120世帯。この報告は都市部（人口集中地区）に位置する独立建ての専用住宅のうち分析が可能になった85戸を対象にしている。